ヤクシカの現状について(生息状況)

環境省九州地方環境事務所

1. 調査の概要

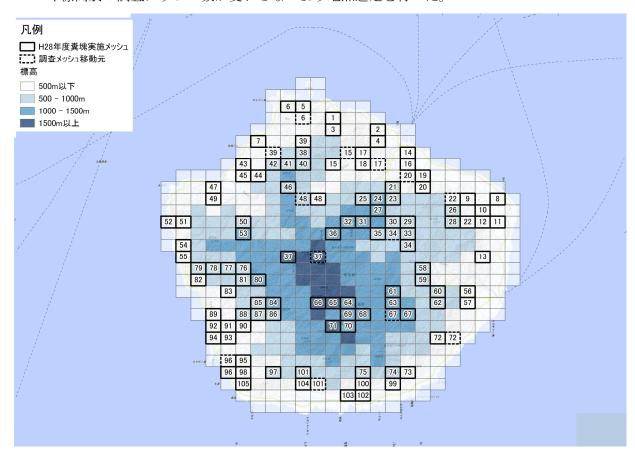
(1)調査時期

平成 28 年 10 月 17 日~11 月 30 日

(2)調査地点

島内 105 地点で調査を実施した。

なお、糞粒法による調査結果と糞塊法による調査結果の相関関係を検証するため、 既存の糞塊調査地点 13 箇所の変更を行った。調査地点の変更に当たっては、全体配置 や標高別の調査メッシュ数が変わらないよう地点選定を行った。



(3)調査方法

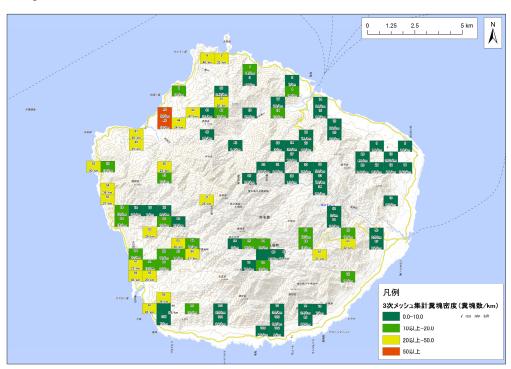
平成 26 年度に設定した尾根上に設定した 2~3 km 程度の調査ラインを踏査して左

右1 mの範囲内の糞塊数を記録した。ただし、調査地点を変更した箇所については、新たに調査ラインを設定し踏査を行った。

2. 調査結果

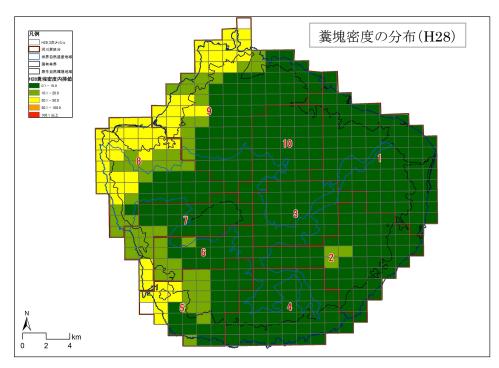
調査地点ごとの糞塊密度は下図のとおり。栗生から西部地域、永田、一湊までのほか、花山歩道入口、小揚子林道奥、ヤクスギランド周辺、安房前岳周辺、鹿ノ沢小屋 周辺等で糞塊密度が高い調査地点が確認された。

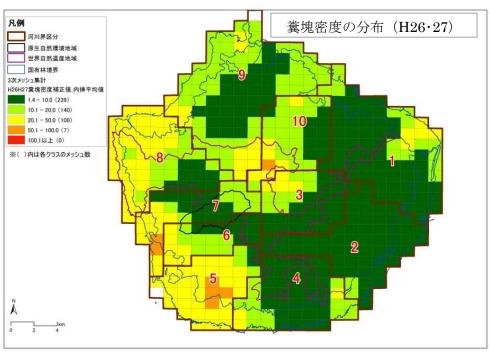
これらの調査結果について温度補正を行ったうえ、全域の糞塊密度分布の推定を行った。



①糞塊密度分布図の作成

平成 26・27 年度と同様の方法により全域の糞塊密度分布の推定を行った。 栗生周辺、西部地域から永田、一湊にかけて相対的に糞塊密度が高い結果となった。 平成 26・27 年度と比較すると、中央部や東部の密度が高い部分が下がり、南西部か ら西部にかけても密度が高い範囲が狭まっている。





②糞塊密度と糞粒による推定生息密度の相関関係

糞塊法による糞塊密度と糞粒法による推定生息密度の相関関係を検証するため、糞粒調査を昨年度と同じ15地点で実施し、九州森林管理局(5地点)および鹿児島県(15地点)による調査結果と合わせ、計35地点の調査結果を用いて相関関係の分析を行った。相関関係を見ると、ある程度の相関関係が認められたものの、平成27年度の検証結果よりは相関が低く、平成26年度検証結果より高い結果となった。

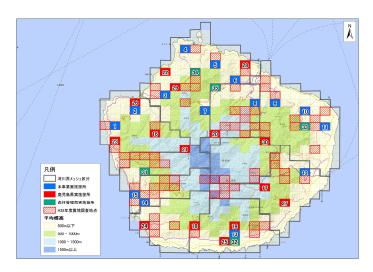
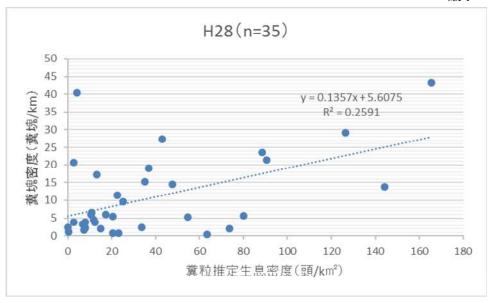
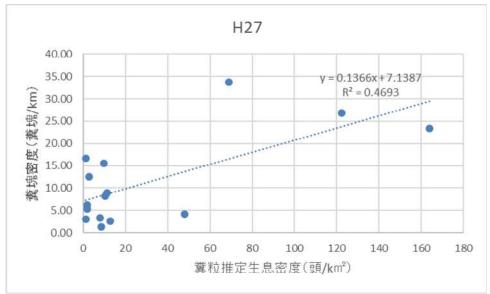


図: 糞粒法調査の実施箇所

表:推定生息密度と糞塊密度

				#	
				推定生息	糞塊密度
実施者	No	地点名	メッシュNo	密度。	(糞塊/km)
				(頭/km²)	
環境省	1	西部林道	51	144.2	13.80
環境省	2	カンカケ岳	49	2.8	20.70
環境省	3	一湊林道土面川	44	35.1	15.20
環境省	4	一湊林道	6	4.1	40.40
環境省	5	志戸子林道	3	6.8	3.20
環境省	6	宮之浦川	17	0.0	2.40
環境省	7	宮之浦林道	48	20.5	0.80
環境省	8	白谷雲水峡	21	2.6	3.80
環境省	9	楠川	20	8.0	2.20
環境省	10	小瀬田林道	9	0.4	1.10
環境省	11	落川北	11	23.1	0.70
環境省	12	安房林道	56	7.5	1.70
環境省	13	尾之間	100	54.6	5.30
環境省	14	栗生	93	36.8	19.00
環境省	15	大川林道	92	90.5	21.40
鹿児島県	16	10	53	11.0	6.60
鹿児島県	17	17	67	22.5	11.50
鹿児島県	18	20	101	80.1	5.60
鹿児島県	19	21	75	73.7	2.00
鹿児島県	20	25	36	14.9	2.00
鹿児島県	21	26	37	20.6	5.50
鹿児島県	22	県1	7	47.7	14.50
鹿児島県	23	県2	54	126.5	29.10
鹿児島県	24	県3	96	165.6	43.20
鹿児島県	25	県4	103	33.7	2.40
鹿児島県	26	県5	47	43.1	27.30
鹿児島県	27	新17	72	25.3	9.60
鹿児島県	28	新3	2	17.4	6.00
鹿児島県	29	新5	42	88.5	23.60
鹿児島県	30	新8	34	11.8	4.50
森林管理局	31	大川奥	83	13.1	17.20
森林管理局	32	尾之間下	102	12.4	3.80
森林管理局	33	愛子東	22	10.5	6.00
森林管理局	34	一湊林道土面川	39	63.5	0.30
森林管理局	35	宮之浦林道	15	8.0	3.90





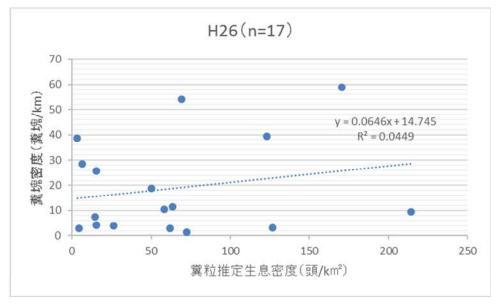


図:推定生息密度と糞塊密度との関係